

72~525kV パンタグラフ形断路器の完成

大森 豊明* 山木 正雄*
Toyoaki Ōmori Masao Yamaki

72~525 kV Pantograph Type Disconnecting Switches

Synopsis

With recent increasing of the electric power demand, large capacity power stations, substations and switchyards are now to be installed in many places and then the gigantic site area is required for these.

On the other hand, since seasonal winds and typhoons with heavy salt contamination come several times in a year, we must think of contamination problems of insulators and bushings of electric power apparatus. Therefore, it is necessary to design special types of insulators and bushings of power apparatus, or to be installed power apparatus of standard type as indoor use. Especially, in the latter case we should to minimize the site area.

In Europa, the developing of new type disconnecting switch is considered to minimize the site area.

In such circumstances, we developed pantograph type disconnecting switches of 60 kV~500 kV class, 800 A~4,000 A. In the following, we will describe the features and the application of these pantograph type disconnecting switches.

I. まえがき

最近特に都市近郊においては用地事情が切迫しており、変電所および開閉所用地の確保は困難をきわめ、仮に入手しても非常に高価であるため、変電所および開閉所用地問題は近年とくに重要な問題となってきた。そのため 140kV, 250kV 系統の都心導入の場合には変電所および開閉所を地下にする傾向にある。

一方わが国の発電所建設も最近は火力に重点がおかれて、ここ 4~5 年以来大形火力発電所が相ついで運転されているが、火力発電所はその立地条件から発電所用の変電所または開閉所を屋内にする場合が多い。その場合できるだけ用地を縮少することが建屋を小形化できて、建設費のコストダウンが可能となる。これらの事情から変電所または開閉所の大半のスペースを占めている断路器を小形化または変形化することにより、大幅な建設費のコストダウンが可能となる。現にヨーロッパの超高压変電所においてはパンタグラフ形が非常に数多く使用されており、わが国においても当社がこれらの点を考慮して 168kV~500kV 級にはパンタグラフ形断路器、24kV~240kV 級には V 形断路器、24kV~84kV 級には T 形断路器、複合 V 形断路器を開発した。

本稿ではわが国の最近の超高压変電所に使用されつつあるパンタグラフ形断路器について、これまでの納入実績を中心に記述する。

II. パンタグラフ形断路器の必要性

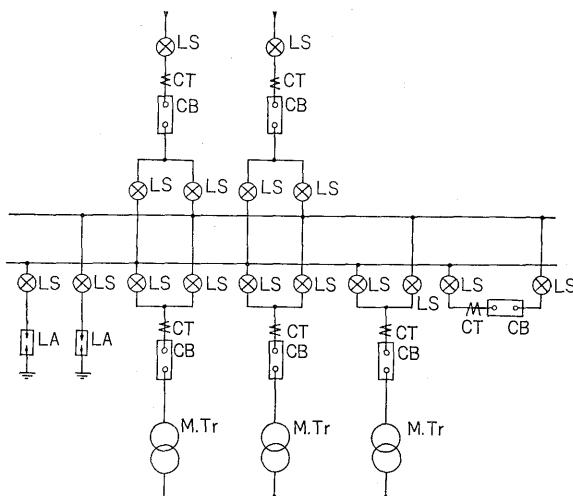
パンタグラフ形断路器はヨーロッパの超高压変電所や開閉所において非常に数多く使用されており、最近はア

* 川崎工場静止器部

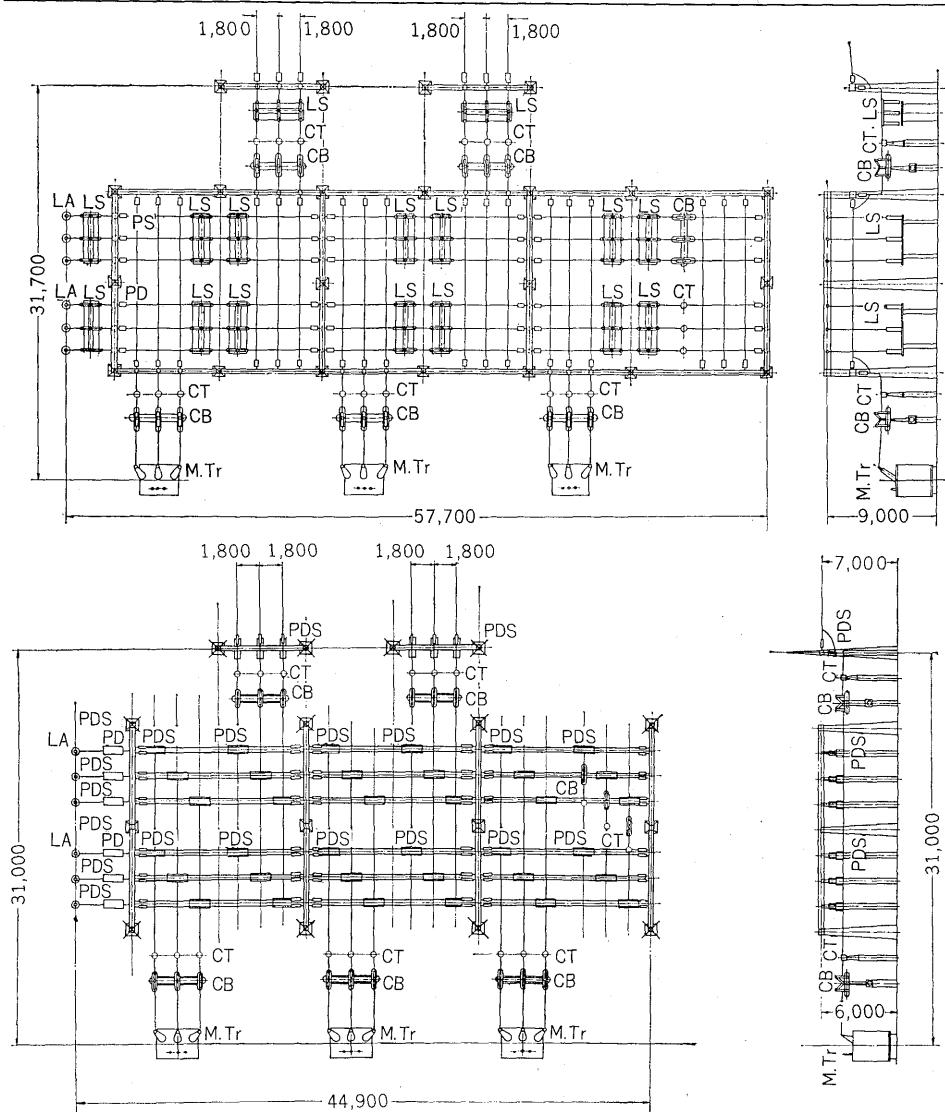
メリカの TVA においても 500kV 断路器に用地節約と建設費のコストダウンを計るためにパンタグラフ形断路器が使用されることになっている。⁽²⁾ パンタグラフ形断路器の必要性は次の特長を持っているからである。

- 1) 開路時に完全に無電圧となる。
- 2) 変電所構内の見通しが良く、保守監視に便利である。
- 3) 断路器用架台が簡単で据付面積が少なく、かつ所要スペースが少なくてよい。
- 4) 各相単独配置ができ、斜め千鳥配置が可能である。
- 5) 母線の直交配置が可能である。
- 6) 活線注水洗浄費用が少なくてよい。

一例として第 1 図 (a), (b), (c) に 70kV 2 回線母線変電所の結線図と機器配置例を示す。この場合には敷地面積が水平 2 点切り断路器とパンタグラフ形断路器とでは後者が前者の 23% の縮少化が可能となる。電圧が高くなればなるほど上記の縮少率が大きくなる。



第 1 図(a) 2回線母線変電所の代表的結線図
Fig. 1. (a) Typical skeleton diagram of double bus substation



第1図(b)
標準形断路器使用による母線配置図

Fig. 1. (b)
Arrangement of bus-structure with normal type disconnecting switches

第1図(c)
パンタグラフ形断路器使用による母線配置図

Fig. 1. (c)
Arrangement of bus-structure with pantograph type disconnecting switches

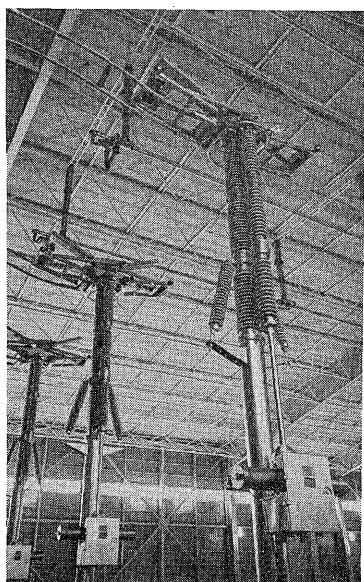
III. パンタグラフ形 断路器の納入実績

第1表にこれまでの納入実績を示す。特に最近の火力発電所、中部電力・知多火力発電所および電源開発・竹原火力発電所にパンタグラフ形断路器が納入されたことは注目に値する。なお電源開発・竹原火力発電所に納入されたものは屋内でストランド線との組合せ使用であり、わが国では初の実績である。第2図に中部電力・知多火力発電所の開閉所に納入されたパンタグラフ形断路器、第3図に中部電力・大井川発電所の変電所に納入されたパンタグラフ形断路器、第4図に関西電力・有馬変電所に納入されたパンタグラフ形断路器、第5図に電源開発・竹原火力発電所の開閉所に納入されたパンタグラフ形断路器、第6図に日本鋼管

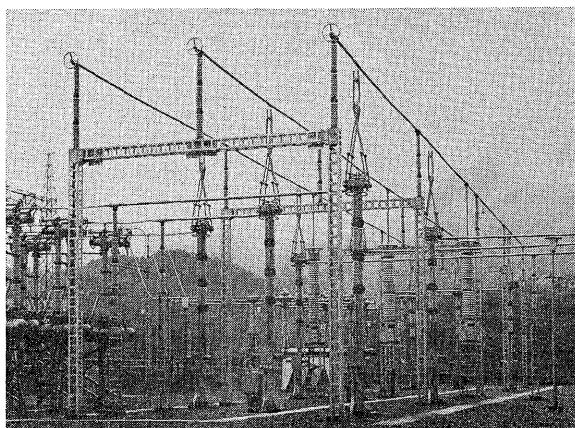
第1表 富士パンタグラフ形断路器納入一覧表

Table 1. Manufacturing list of pantograph type disconnecting switches

定 格				納 入 先	相 数	工 場 完 成 年 月	備 考
電 壓 (kV)	電 流 (A)	操 作 壓 力 (kg/cm ²)	短 時 間 電 流 (kA)				
120	1,200	5	20	日本鋼管(中央)	3	36-2	60kV S S 耐 塩 噴 用
					3	38-5	
				出光興産(千葉)	24	36-10	耐 塩 噴 用 パイプス S S
	800	5	20	富士鉄(広畑)	6	35-3	70kV 耐 塩 噴 用
					7	36-8	
168	1,200	5	20	日本鋼管(中央)	15	36-2	耐 塩 噴 用
					6	39-3	対 地 200 号
				住友化学(名古屋)	24	36-6	耐 塩 噴 用
					6	37-3	
					6	39-10	対 地 200 号
	1,200	5	22	関西電力(有馬)	3	38-11	パイプス S S
					都水道局(金町)	6	38-11
							耐 塩 噴 用
							対 地 200 号
240	1,200	15	22	電源開発(竹原火力)	9	41-10	屋内ストランド線
	1,200	5	32	形 式 試 験 用	3	38-1	
300		15	22	中部電力(大井川)	9	40-3	パイプス S S
	4,000	15	60	中電形式試験用	1	38-8	
	4,000	15	52.5	中部電力(知多)	12	40-4	パイプス S S
525	1,200	5	30	超 高 研(武山)	24	37-9	
84	1,200	5	22	東燃石油化学(川崎)	12	40-5	

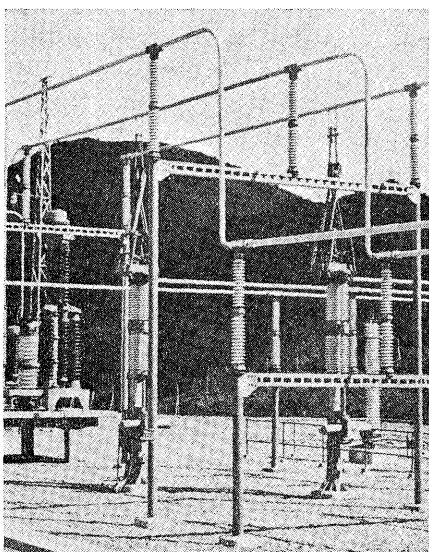


第2図 中部電力・知多火力発電所に納入された 300kV 400A パンタグラフ形断路器
Fig. 2. 300 kV 400 A pantograph type disconnecting switches installed in Chita Thermal P.S. of Chubu Electric Power Co.

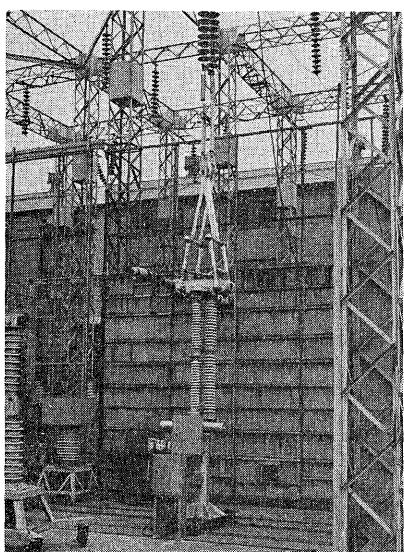


第3図 中部電力・大井川変電所に納入された 300kV 1,200A パンタグラフ形断路器

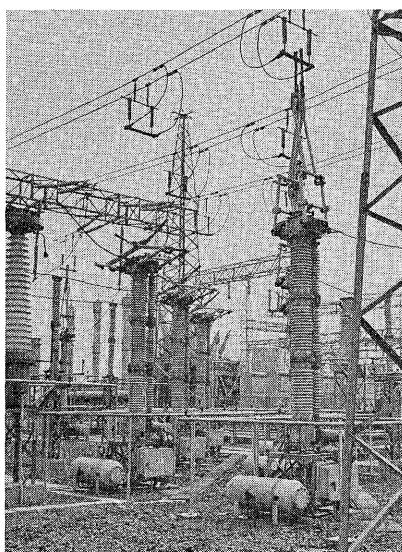
Fig. 3. 300 kV 1,200 A pantograph type disconnecting switches installed in Oigawa S.S. of Chubu Electric Power Co.



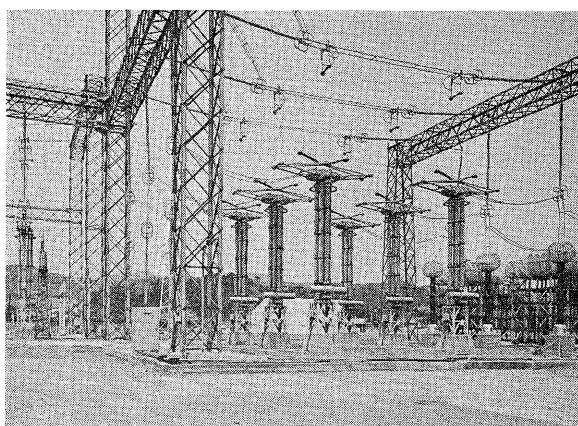
第4図 関西電力・有馬変電所に納入された 168kV 800A パンタグラフ形断路器
Fig. 4. 168 kV 800 A pantograph type disconnecting switch installed Arima S.S. of Kansai Electric Power Co.



第5図 電源開発・竹原火力発電所向け 240kV 1,200A パンタグラフ形断路器
Fig. 5. 240 kV 1,200 A pantograph type disconnecting switch for Takehara Thermal P.S. of Electric Power Development Co., Ltd.



第6図 日本鋼管・川崎変電所に納入された 168kV 1,200A パンタグラフ形断路器
Fig. 6. 168 kV 1,200 A pantograph type disconnecting switches installed in Kawasaki S.S. of Nippon Kokan K.K.

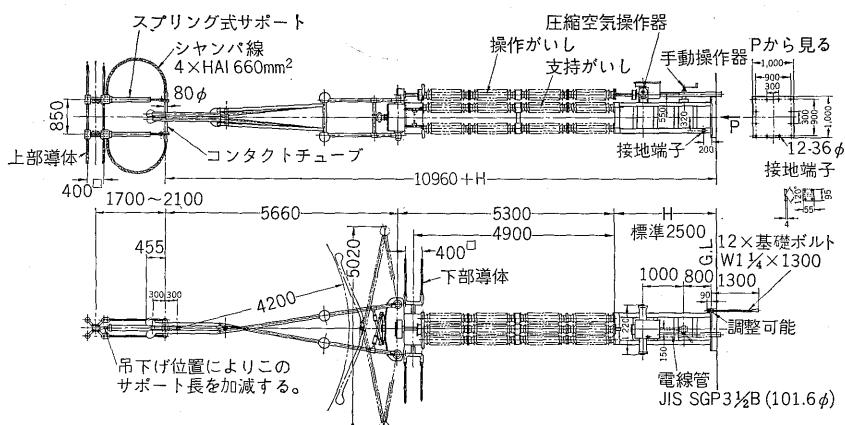


第7図 超高圧電力研究所に納入された 525kV 1,200A パンタグラフ形断路器
Fig. 7. 525 kV 1,200 A pantograph type disconnecting switch installed in Takeyama Extra-high Voltage Power Laboratory

川崎変電所に納入されたパンタグラフ形断路器、第7図に超高圧研究所（武山）に納入されたパンタグラフ形断路器を示す。なお 525kV 4,000A パンタグラフ形断路器は第8図に示すものが今後の標準である。

IV. 定 格

パンタグラフ形断路器の形式および諸定格を第2表に示す。特に定格電圧 300kV および 525kV の 4,000A 器は当社独自の技術で開発したもので、ドイツ・シーメンス社およびスイス・ブラウンボベリ社においても 2,000A 器まである。特に主接触部を除く通電部はアルミ合金を使用し、通電部の軽量化ならびに操作器の小型化を計ったものである。



第8図
525kV 2000,4000A パンタグラフ形断路器

Fig. 8.
525 kV 2000, 4000 A pantograph type disconnecting switch

第2表 パンタグラフ形断路器の形式、定格表

Table 2. List of types and ratings of pantograph type disconnecting switches

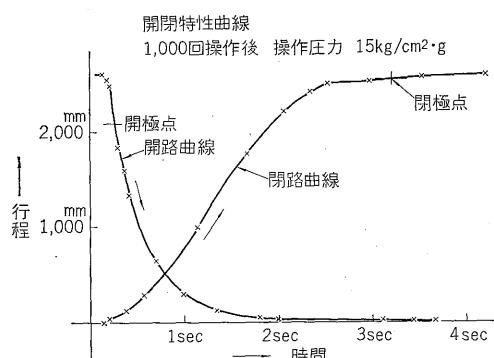
本体	形 式	H F 273/70/ 1200D	H F 273/100/ 2000D	H F 273/140/ 2000D	H F 273/200/ 4000D	H F 273/250/ 4000D	H F 273/500/ 2000D	※
		2000D	4000D	4000D	4000D	4000D	4000D	4000D
	定 格 電 壓 (kV)	72, 84		120	168	240	300	525
	定 格 電 流 (A)				1,200, 2,000, 4,000			
	定 格 短 時 間 電 流 (kA)				32, 44, 53			
	定 格 周 波 数 (%)				50/60			
	絶 縁 階 数 (号)	60, 70	100	140	170	200	500	
操作器	形 式	R 288/1420	H F 288/1319			H F 288/1640		
	操 作 気 圧 (kg/cm²)				15 kg/cm²			
	制 御 電 壓 (V)				D C 100, 110V			

※印は 500kV 標準器である。なお超高压研究所納入のものは特殊使用のものである。

V. 試験結果

1. 開閉試験

第9図に一例として 300kV, 4,000A の開閉特性を示す。定格電圧 84kV~525kV のパンタグラフ形断路器の平均開閉速度は 0.5~3 m/s である。



第9図 ストロークと閉路および開路時間の関係

Fig. 9. Relation between stroke and closing and opening time

2. 小電流しゃ断試験

小電流には線路の充電電流、変圧器の励磁電流、ループ回路のループ電流があるが、超高压系統では断路器で

変圧器の励磁電流をしゃ断することはほとんどないので、ここでは充電電流、ループ電流のしゃ断特性について記述する。

1) 充電電流

定格電圧 168kV, 240kV, 300kV 器のしゃ断特性を第3表(a)(b)(c)に示す。第3表(a)(b)(c)からわかるように定格電圧 168kV~300kV のパンタグラフ形断路器で充電電流 1A は充分余裕をもってしゃ断できる。

2) ループ電流

ループ電流のしゃ断性能はループ電圧の影響が大きいので一概に評価できないが、2~3 の例として 168kV, 300kV のしゃ断性能を第4表(a)(b)に示す。

3. 汚損試験

汚損試験には等価霧中および注水洗浄試験があり、第10図と第11図に定格電圧 240kV, 300kV のパンタグラフ形断路器の汚損試験結果を示す。等価霧中試験では 0.03mg/cm² の汚損状況で 1 線接地の電位上昇にも充分耐えることがわかる。

4. コロナ試験

定格電圧 240kV, 300kV のパンタグラフ形断路器の可視コロナ開始電圧および可視コロナ消滅電圧の測定結

第 3 表(a) 充電電流しゃ断特性 (300kV 器)
Table 3.(a) Characteristics of rupturing capacity of charging current

しゃ断電流(A)	アーク時間(sec)	開離度(%)	異常電圧倍数(倍)	風速(m/s)
0.06	1.045	22.0	1.23	3.0
0.06	0.97	14.1	1.24	3.0
0.06	1.02	17.9	1.23	3.0
0.15	1.06	19.3	1.40	2~3
0.15	0.988	15.2	1.32	2~3
0.15	0.945	14.5	1.22	2~3
0.42	1.23	30.4	1.61	
0.42	1.203	28.3	1.35	
0.42	1.18	25.9	1.42	
0.42	1.20	30.0	1.55	
0.66	1.16	26.2	1.71	3.4
0.66	1.15	26.2	1.69	4.5
0.66	1.253	35.0	1.73	5.0
0.87	1.278	36.9	1.60	
0.87	1.28	38.3	1.90	2.7
0.87	1.31	40.0	1.88	3.5

操作気圧 : 5 kg/cm², 試験電圧 : 1φ 173kV

第 3 表(b) 充電電流しゃ断特性 (240kV 器)
Table 3.(b) Characteristics of rupturing capacity of charging current

しゃ断電流(A)	アーク時間(sec)	開離度(%)	異常電圧倍数(倍)	風速(m/s)
0.215	1.19	13.95	1.284	1.5~2.0
0.215	1.08	12.3	1.489	1.5~2.0
0.215	1.03	11.48	1.272	1.5~2.0
0.505	1.382	18.05	1.545	1.5~2.0
0.505	1.23	23.0	1.745	1.5~2.0
0.505	1.395	30.8	1.860	1.5~2.0
1.10	1.20	20.1	1.641	1.5~2.0
1.10	1.55	25.0	1.362	1.5~2.0
1.10	1.11	27.8	1.615	1.5~2.0

操作気圧 : 15 kg/cm², 試験電圧 : 1φ 139kV

第 3 表(c) 充電電流しゃ断特性 (168kV 器)
Table 3.(c) Characteristics of rupturing capacity of charging current

しゃ断電流(A)	アーク時間(sec)	開離度(%)	異常電圧倍数(倍)	風速(m/s)
1.10	0.912	40	1.8	1.5~2.0
1.10	0.892	35	1.5	1.5~2.0
1.10	0.822	29.5	1.0	1.5~2.0
1.10	0.882	37	1.5	1.5~2.0
1.10	0.776	27.5	1.6	1.5~2.0
1.10	0.73	22.5	2.0	1.5~2.0
1.10	0.77	27.5	1.0	1.5~2.0
1.10	0.948	41	1.9	1.5~2.0
1.10	0.70	21	1.3	1.5~2.0
1.10	0.962	46	1.6	1.5~2.0
2.3	0.998	49	1.5	1.5~2.0
2.3	1.484	10.5	1.8	1.5~2.0
2.3	1.50	90.5	2.1	1.5~2.0
2.3	1.41	90	1.8	1.5~2.0

操作気圧 : 5 kg/cm², 試験電圧 : 93kV

第 4 表(a) ループ電流しゃ断特性 (300kV 器)

Table 4.(a) Characteristics of rupturing capacity of loop current

試験電圧(kV)	しゃ断電流(A)	アーク時間(sec)	開離度(%)	風速(m/s)
30	52.6	—	66.9	2
30	37.0	2.20	79.7	1.5
30	39.0	2.10	77.6	2.4
30	37.0	2.19	84.1	2.0
20	37.0	1.37	39.7	2.7
20	37.0	1.57	51.4	2.5
20	37.0	1.62	55.3	1.8

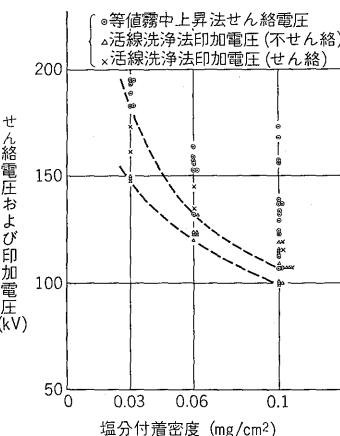
操作気圧 : 5 kg/cm²

第 4 表(b) ループ電流しゃ断特性 (168kV 器)

Table 4.(b) Characteristics of rupturing capacity of loop current

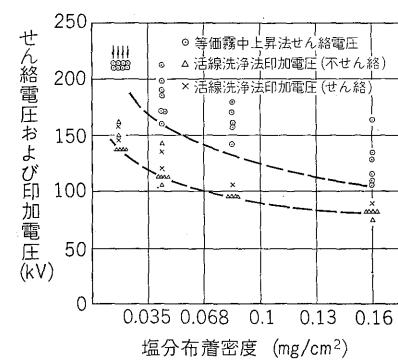
試験電圧(kV)	しゃ断電流(A)	アーク時間(sec)	開離度(%)	風速(m/s)
4.4	266	1.01	55	2~3
4.4	266	0.98	49	2~3
4.4	266	1.244	79	2~3
6.0	47	0.94	44	2~3
6.0	47	1.024	57	2~3
6.0	47	1.194	74	2~3
8.7	43.3	1.22	74	2~3
8.7	43.3	1.28	79	2~3
8.7	43.3	1.36	89.5	2~3
15	45	1.126	65	2~3
15	45	0.996	57	2~3
15	45	1.192	72.5	2~3

操作気圧 : 5 kg/cm²



第 10 図
汚損せん絡特性
(240kV器)

Fig. 10.
Flashover voltage of
contaminated pantograph type disconnecting switch



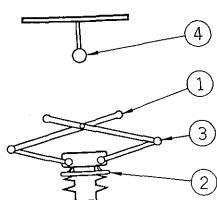
第 11 図 汚損せん絡特性 (300 kV 器)

Fig. 11. Flashover voltage of contaminated
pantograph type disconnecting switch

第5表 コロナ開始電圧および消滅電圧(300kV器)

Table 5. Corona starting and extinguish voltage

	測定個所	開始電圧 (kV)	消滅電圧 (kV)
断路器“閉”	①	265	245
	②	316	305
	④	330	290
断路器“開”	①	260	240
	②	260	248
	③	300	285
	④	400	380



第6表 コロナ開始電圧および消滅電圧(168kV器)

Table 6. Corona starting and extinguish voltage

	測定個所	開始電圧 (kV)	消滅電圧 (kV)
断路器“閉”	①~④	240 以上	240 以上
断路器“開”	①	200	186
	②~④	240 以上	240 以上

果を第5表および第6表に示す。この結果からわかるように1線接地の電位上昇にもコロナが発生しないことがわかる。

5. その他の試験

その他に短時間電流試験、耐電圧試験、寿命試験には充分余裕があり、特にパンタグラフ形断路器がストランド線を組合せて使用した時の状態を模擬した接触子しう動試験(定格電流を通電した状態で接触子をしう動する試験)をも実施し、充分性能を満足している。

VI. 適用上の問題点

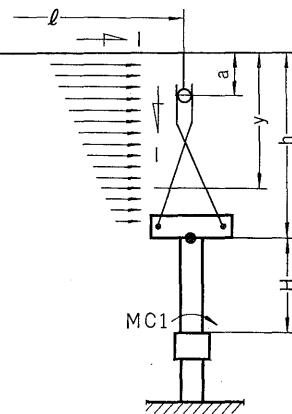
パンタグラフ形断路器を設置する場合、接続母線が撲線かパイプバスかによって短絡、風圧、地震、操作などによる強度を検討しなければならない。

一般にこれらの強度計算には下記の3通りがあり、

- 1) 短絡時の電磁力+風圧荷重+常時使用荷重
 - 2) 短絡時の電磁力+地震荷重+常時使用荷重
 - 3) 機器操作の衝撃荷重+風圧荷重+常時使用荷重
- 台風と地震とが同時に起りうると考えると不経済になるので一般には分けて考える。

短絡時の電磁力は第12図、第13図に示すような力が作用する。第12図、第13図の電磁力によるモーメントは次式で表わされる。

$$Mc_1 = \int_a^h F_p (H+h-y) dy = K \left[(H+h) \log \frac{h}{a} - \frac{l + \sqrt{a^2 + l^2}}{l + \sqrt{h^2 + l^2}} - l \log \frac{h + \sqrt{h^2 + l^2}}{a + \sqrt{a^2 + l^2}} \right]$$

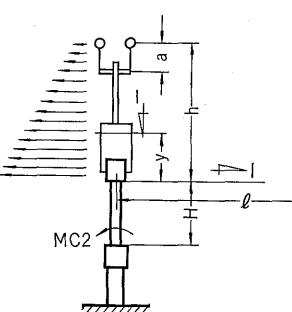


第12図

電磁力作用図

Fig. 12.

Electromagnetic force
acted on pantograph
type disconnecting
switch



第13図

電磁力作用図

Fig. 13.

Electromagnetic force
acted on pantograph
type disconnecting
switch

$$l \rightarrow \infty \quad Mc_1 = K \left[(H+h) \log \frac{h}{a} - (h-a) \right] (\text{kg} \cdot \text{m})$$

$$Mc_2 = \int_{y_0}^y F_p (H+y) dy = K \left[H \log \left(\frac{l + \sqrt{y_0^2 + l^2}}{l + \sqrt{y^2 + l^2}} \right) + l \log \frac{y + \sqrt{y^2 + l^2}}{y_0 + \sqrt{y_0^2 + l^2}} \right]$$

$$l \rightarrow \infty \quad Mc_2 = K \left[H \log \frac{y}{y_0} + (y - y_0) \right]$$

$$\approx K \left[H \log \frac{y}{y_0} + y \right] = K \left[H \log \frac{h-a}{y_0} + (h-a) \right] (\text{kg} \cdot \text{m})$$

なお

$$F_p = K \frac{l}{y \sqrt{l^2 + y^2}} (\text{kg} \cdot \text{m})$$

$$K = 1.02 \times \left(\frac{I_s}{\sqrt{2}} \right)^2 k \times 10^{-8} (\text{kg})$$

I_s : 次過渡電流交流分波高値 (A)

k : ストレスファクタ

y_0 : 下部導体半径

一例として 300kV 1,200A パンタグラフ形断路器の配置上の計算をおこなってみると第7表に示す値となる。以上の計算結果からわかるように 300kV 15,000 MVA のところにはパンタグラフ形断路器の標準形では問題ないことがわかる。撲線とパンタグラフ形断路器の組合せにおいては撲線の温度変化による弛度変化に対しパンタグラフ形断路器の接触部の変位についてはおののおのの使用状態により検討すべきであるが、現在の接触子寸法で充分保証できる。なお撲線の水平常時張力が極端に小さい時は懸垂がいしと鉄構の間にスプリングをそう入し、線の温度変化に対し弛度の変化を小さくする必要がある。

第 7 表 パンタグラフ形断路器 (P.D.S) 荷重計算表

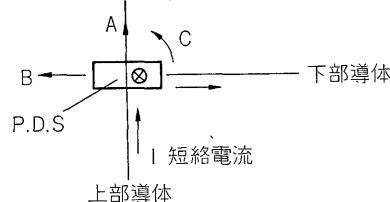
Table 7. List of calculated load of pantograph type disconnecting switches in some condition

計算条件	短絡電流	32,000 A					
	相間	5 m					
	上部導体	2 × ACSR 330 mm ²					
	下部導体	2 × ACSR 330 mm ²		Al パイプ 100 φ/88 φ			
	下部導体径間	15 m					
	下部導体初張力	2 × 100 kg					
	風速	40 m/s					
	地震	0.5 g					
荷重 (kg・m)	上部導体直交による電磁力	A	306	306			
	下部導体直交による電磁力	B	644	516			
	下部導体の電磁力、風圧による張力 および荷重増加。	風圧のみ	-B	1,064	A 254		
		電磁力のみ	-B	1,160	A 272		
		風圧+電磁力	-B	1,516	A 490		
	風圧荷重 (P.D.S 本体のみ)	A	863				
	地震荷重	方向不定	963	993			
	下部導体によるがいしの ねじりモーメント	風圧のみ	C	—	602		
		風圧+電磁力	C	—	335		
	1) 電磁力+風圧+常時荷重		1,755	1,740			
	2) 電磁力+地震+常時荷重		1,566	1,858			
総合荷重 (kg・m)	3) 操作時の衝撃+風圧+常時荷重		1,403.6	1,150.6			
	がいし	がいしの破壊曲げ荷重 (kg・m)	4,630				
安全率	1) の場合		2.65	複合安全率 1.84	※		
	2) の場合		2.96	複合安全率 2.17			
	3) の場合		3.3	複合安全率 3.0			

注 1) A, B, C は荷重方向を示す。

2) がいしの安全率は 2~2.5 以上あれば問題ない。

※ ねじり荷重を緩衝させる方法を検討する必要あり。



VII. むすび

ここ数年来発、変電、開閉所の建設費を低減するため、新形断路器の開発が各国とも盛んになってきたが、本稿では富士のパンタグラフ形断路器の特長納入実績を中心に記述した。今後この種断路器を使用することにより、発変電開閉所の建設費を大幅に低減されることを祈ってやまない。

参考文献

- (1) 大森他：富士時報 36 P 305 (昭 38)
- (2) B.B.C Rev. 52, 8 P 650
- (3) C.W. Frick : GE. Rev. P 232 (1933)



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する商標または登録商標である場合があります。